

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

事業名：深川・留萌自動車道（一般国道233号） 幌糠留萌道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北海道開発局		
起終点：自：北海道留萌市大字留萌村字幌糠 至：北海道留萌市堀川町	延長：13.0km			
事業概要： <p>深川・留萌自動車道は、深川市を起点とし、秩父別町、沼田町、北竜町を經由して留萌市に至る延長約49kmの自動車専用道路である。</p> <p>このうち幌糠留萌道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び重要港湾留萌港への物流効率化等の支援を目的とした、留萌幌糠インターチェンジから留萌インターチェンジ（仮称）に至る延長13.0kmの事業である。</p>				
H8年度事業化	H-年度都市計画決定 (H-年度変更)	H12年度用地着手	H12年度工事着手	
全体事業費	約522億円	事業進捗率	78%	
計画交通量	7,500~8,500台/日			
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.3	総費用 (残事業)/事業全体 137/526億円 (事業費：113/490億円 維持管理費：24/36億円)	総便益 (残事業)/事業全体 284/659億円 (走行時間短縮便益：227/536億円 走行経費減少便益：41/91億円 交通事故減少便益：16/33億円)	基準年：平成25年
	(残事業) 2.1			
感度分析の結果：事業全体および残事業について感度分析を実施				
【事業全体】交通量：B/C=1.1~1.4 (交通量±10%)    【残事業】交通量：B/C=1.8~2.3 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.2~1.3 (事業費±10%)                      事業費：B/C=1.9~2.3 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.3 (事業期間±20%)                      事業期間：B/C=1.9~2.2 (事業期間±20%)				
事業の効果等 事業の必要性及び効果				
①主要都市間の利便性向上 ・留萌市と旭川市間の所要時間が短縮され、地域住民の利便性向上や地域間交流の活性化が期待される。				
②重要港湾の利便性向上 ・並行国道の渋滞箇所や信号交差点を回避することにより、速達性及び定時性の高い輸送ルートが確保され、留萌港から上川方面等に運ばれる貨物の流通及び留萌港の利便性向上が期待される。				
③物流の利便性向上 <水産品の流通利便性向上> ・速達性及び定時性の高い輸送ルートが確保され、留萌管内から運ばれる水産品の流通利便性向上が期待される。 <畜産品の流通利便性向上> ・留萌管内から旭川市等へ運ばれる畜産品の流通利便性向上が期待される。 <食料加工品の流通利便性向上> ・速達性及び定時性の高い輸送ルートが確保され、食料加工品の流通利便性向上が期待される。				
④救急搬送の安定性向上 ・留萌市の医療施設から第三次救急医療機関への搬送時間が短縮されるなど、救急搬送の安定性向上が期待される。				
⑤観光地への利便性向上 ・留萌管内と道央圏を結ぶ広域観光ネットワークの形成が図られ、主要な観光地への利便性向上が期待される。				
⑥“音楽合宿のマチ”留萌市への利便性向上 ・楽器輸送時間が短く、揺れの少ない安定性の高いルートが確保され、“音楽合宿のマチ”留萌市への利便性向上が期待される。				

⑦日常生活の利便性向上

- ・速達性及び安定性の高い運行ルートが確保され、都市間バス利用者の利便性向上が期待される。

⑧CO<sub>2</sub>排出量の削減

- ・自動車からのCO<sub>2</sub>排出量5,377(t-CO<sub>2</sub>/年)の削減が期待される。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

留萌市など留萌管内の1市6町1村の首長等で構成される「北海道留萌地域総合開発期成会」等より事業促進の要望を受けている。

知事の意見：

高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、重要港湾留萌港等へのアクセス強化が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、より一層、徹底したコスト削減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・深川・留萌自動車道が深川JCT～留萌大和田ICまで開通
- ・ゴールデンビーチるもいが全面オープン
- ・留萌港三泊地区ー12m岸壁が運用開始
- ・シーニックバイウェイ北海道「萌える天北オロロンルート」が指定
- ・留萌港が拠点化形成促進港に選定
- ・道の駅「おびら鯨番屋」リニューアルオープン
- ・船場公園オープン

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成12年度に工事着手して、用地進捗率97%、事業進捗率78%となっている。(平成28年3月末時点)

平成24年度：留萌幌糠IC～留萌大和田IC間 延長8.9km(2/4)部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

平成31年度：留萌大和田IC～(仮称)留萌IC間 延長4.1Km(2/4)開通予定

施設の構造や工法の変更等

トンネル掘削パターンの変更、軟弱地盤対策工の見直し等による変更。引き続きコスト削減に取り組んでいく。

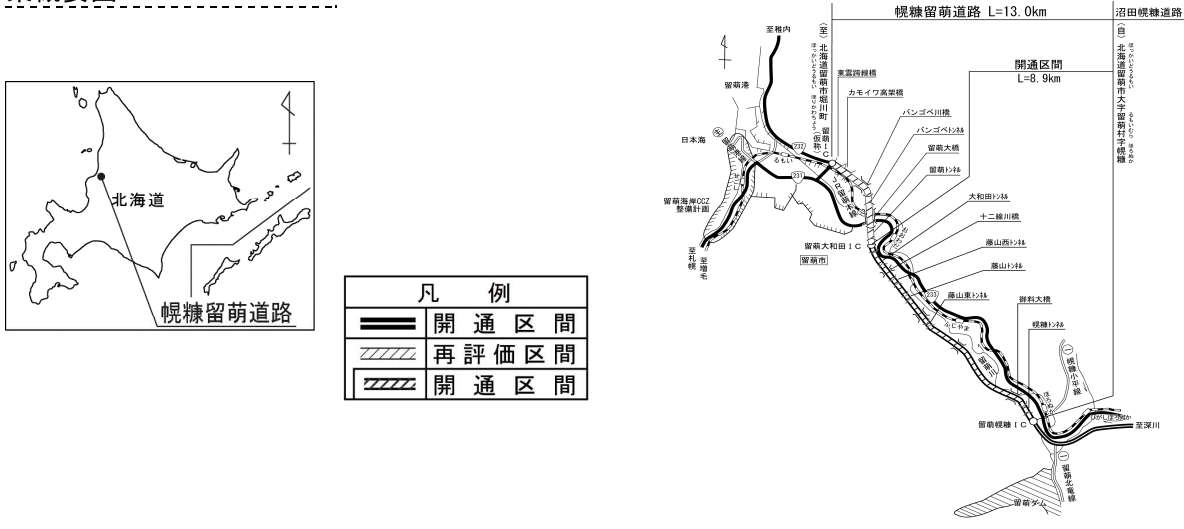
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 費用対効果分析に係る項目は平成25年評価時点。